

外国語専科指導非常勤講師を活用した外国語活動・外国語科教育の充実

東神楽町立東聖小学校 学級数 20（6）（校長 成田 光弘）

I 実践のポイント

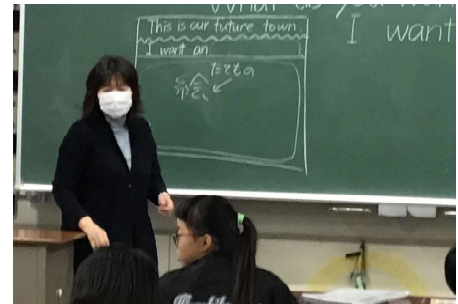
- 東神楽町では、小中一貫教育の実施に先立ち、平成 29 年度から外国語活動の乗り入れ授業を行っており、今年度は外国語専科非常勤講師を活用して外国語活動・外国語の充実を図っている。
- 東神楽町教育委員会の A L T と外国語専科非常勤講師との T T により、児童はより専門的な授業を受けている。
- 東神楽町働き方改革アクションプランを踏まえ、外国語専科非常勤講師の活用により、教員は外国語以外の授業準備や教材研究のほか、授業以外の業務を行っている。

II 実践の内容

(1) 外国語活動、外国語科の充実に向けて

本町では、平成 31 年 4 月から開始した「小中一貫教育」の実施に向けて、平成 29 年度から先行的に中学校の英語教員が町内の小学校において、第 3 学年から第 6 学年までの外国語活動、外国語科の乗り入れ授業を行ってきた。

今年度も外国語活動、外国語科の授業を充実させるために、元中学校外国語科教員を「小学校外国語専科指導非常勤講師」として活用することで、乗り入れ授業と同等の授業を行っている。



【非常勤講師による授業の様子】

(2) A L T との連携について

本町では、第 3・4 学年の外国語活動、第 5・6 学年の外国語科の全ての授業に A L T を配置しており、本校では外国語専科非常勤講師との T T で学習を進めている。外国語活動等の授業がある日は、1 時間目の授業開始前にその日の活動内容や役割分担など、職員室で打合せを行うとともに、授業後も次の活動内容を確認している。



【A L T との打合せの様子】

(3) 東神楽町働き方改革アクションプランの取組として

平成 30 年に策定された「東神楽町働き方改革アクションプラン」では、教員が本来担うべき業務に専念できる環境を整備するために、専門スタッフ等の配置の促進を掲げており、本校では、外国語専科指導非常勤講師がその役割を担っている。

action1 本来担うべき業務に専念できる環境の整備

- (1) 「チーム学校」の実現に向けた専門スタッフ等の配置の促進
各学校の課題に応じて、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、外国語専科指導教諭、部活動指導員、スクール・サポート・スタッフ、小中一貫教育コーディネーター、共同学校事務室事務職員、ミッション加配事務職員、校務支援システム活用事業加配教諭、図書協力員、栄養教諭、特別支援教育支援員、非常勤講師（遠人材活用事業、主幹教諭加配）などの配置及び派遣を進めます。
- (2) I C T を活用した教材の共有化等による授業準備等の支援の充実
民間企業等との連携による I C T 機器を活用した、プログラミング教育等の導入を計します。
- (3) 校務支援システムの導入促進
成績処理や校務支援システムやメール機能などを有するグループウェアを備えた、「海老川公立学校校務支援システム」の導入を進めます。

【東神楽町働き方改革アクションプラン】

III 実践の成果（○）と課題（●）

- 小学校外国語専科指導非常勤講師が A L T と連携し、全ての外国語活動・外国語の授業を行うことで、児童はより専門的で質の高い授業を受けることができている。
- 自校教員は、外国語活動等の空き時間を使って他教科等の授業準備や教材研究を行うことで、勤務時間の縮減につながっており、教員の働き方改革に効果を上げている。
- 小学校外国語科指導非常勤講師から自校教員が直接指導技術を学ぶ機会を設けるなど、外国語の指導力向上に向けて研修の機会を設定する必要がある。

小学校外国語科における教科担任制による指導

比布町立中央小学校 学級数 12 (6) (校長 紺野 元樹)

I 実践のポイント

- 兼務発令による小学校外国語科における教科担任制の実施
- 全学年外国語に係る全授業時間へのALTの配置
- 年間を見通した計画的な乗り入れ授業の実施

年度	教科担任制	担当時数	授業担当者
H29	第5、6学年	週2時間	小中一貫加配
H30	第5、6学年	週2時間	小中一貫加配
H31	第6学年	週2時間	小中一貫加配
R02	第5、6学年	週4時間	時間講師

II 実践の内容

(1) 兼務発令による小学校外国語科における教科担任制の実施

中学校教員が外国語科（第5、6学年）で専科指導を行い、専門性を生かした指導の充実を図るとともに、小学校教員と授業研究を合同で行い、小学校教員の指導力の向上に努めている。授業では、デジタル教材やパワーポイント等、積極的にICT機器を活用して学習を進めている。

平成29年度からの3年間は「小中一貫教育支援事業」による加配を活用し、教科担任制を実施してきた。令和2年度は外国語科時間講師を活用し、毎週水・金曜日に時間割を固定し、第5、6学年への指導を行っている。なお、中学校教員も毎時間T・Tとして授業に入り、ALTや学級担任と連携して児童への支援に当たっている。

【教科担任制の取組の推移】



【第6学年外国語科における専科指導】

(2) 教育委員会によるALTの全授業時間への配置

学校向けALT配置事業を展開する株式会社インタラック北日本と教育委員会が契約を結び、外国語科、外国語活動、低学年への英語に親しむ活動（学級活動）の時間は、全ての授業にALTが配置されている。今年度から外国語科にも観点別学習状況の評価及び評価が取り入れられたため、教科担任とALTが連携しながら、児童一人一人と英語で会話する等の場面を多く設定している。



【中学校教員の乗り入れ】

(3) 年間を見通した計画的な乗り入れ授業の実施

年間を通して外国語科の専科指導（週2日）を行うために、小・中学校の時間割担当者による連絡調整や乗り入れ授業を行う曜日の固定化などの工夫を行った。

また、計画的な指導の充実に向け、重点的に連携して指導する単元の共通理解を図るなど、指導計画をブラッシュアップしている。



【ALTによる評価活動例】

III 実践の成果（○）と課題（●）

- 中学校教員の専門性を生かした小学校における専科指導や乗り入れ授業により、児童の英語力の向上を図ることができた。
- 専科指導や乗り入れ授業等の計画的な実施により、中学校教員と小学校教員による授業改善に係る日常的な交流が生まれ、授業改善を推進することができた。
- 学級担任やALTと連携した授業実践を積み重ねることで、外国語の授業としてのスタンダードを教員間で確認することができた。
- 義務教育学校への移行等を見据えて、教科担任制等の計画的な取組の充実を図り、小中一貫教育の円滑な推進を図る。

小学校外国語活動及び外国語の充実に向けた取組

猿払村立鬼志別小学校 学級数8 (校長 藤田 淳)

1 実践のポイント

(1) 外国の言語、文化等に対する興味・関心を高める工夫

- ALT を効果的に活用した活動の充実
- ALT による外国の文化や生活などについての積極的な紹介

(2) 「小学校外国語等巡回指導教員研修事業」巡回指導教員を中心とした授業改善

- 検証改善サイクルの確立と授業改善
- 教員の指導力向上を図る校内研修の実施

2 実践の内容

(1) 外国の言語、文化等に対する興味・関心を高める工夫

○ ALT を効果的に活用した活動の充実

児童が楽しみながら英語を学べることができるよう、ALT による正しい発音に関する指導を行ったり、ICT 機器を効果的に活用して ALT と児童が英語でコミュニケーションを図ることができる Activity を行ったりするなど、工夫した取組を行っている。

○ ALT による外国の文化や生活などについての積極的な紹介

児童が言語や文化について興味・関心を高め、体験的に理解を深めることができるよう、Unit の中で ALT が出身国の文化や生活用品、日本文化との違い等を積極的に紹介する場面を意図的、計画的に位置付けている。



【ALTと積極的に交流する児童の様子】

(2) 「小学校外国語等巡回指導教員研修事業」巡回指導教員を中心とした授業改善

○ 授業改善に向けた検証改善サイクルの確立

外国語活動・外国語の日常的な授業改善を図るため、学級担任、ALT、巡回指導教員の三者による打合せの場を週1回設定している。打合せでは、(C) 1週間の授業のフィードバックを行い、(A) 改善に向けた効果的な指導方法等について協議を行うとともに、(P・D) 次週の授業に向けて指導内容やT1、T2の役割を確認した上で授業を行っている。

また、巡回指導教員は、協議の内容等を踏まえ、定期的に外国語指導に関するポイントをまとめた「英語科通信」を発行し、全教職員の共通理解に基づく授業実践を進めている。

○ 教員の指導力向上に向けた校内研修の実施

教員の指導力向上による授業の改善・充実を図るため、巡回指導教員を講師とした校内研修を実施した。研修では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をテーマとして設定し、講師による模擬授業、Classroom English (英語を活用した指示等)、発音の指導など、実践的な研修を行った。



【研修における模擬授業の様子】

3 実践の成果 (○) と課題 (●)

- 打合せで ALT を効果的に活用した授業を構想し、実践を行ってきたことにより、児童は英語や外国の文化等に対する興味・関心を高め、積極的に授業に参加するようになった。
- 検証改善サイクルの確立や日常の実践につながる研修等の実施により、教員は授業に対する意欲を高め、ALT と連携を図りながら積極的に実践するようになった。
- 外国語活動・外国語で育成する資質・能力を身に付けさせるため、引き続き、授業者と ALT 等による打合せの時間の確保や計画的な校内研修を実施するとともに、今年度の成果や課題を踏まえた教育課程の改善を図る必要がある。